

立教館関係年表

安永 3年	(1774)	小浜藩に「順造館」が開設される。
享和 3年	(1804)	丸岡藩に「平章館」が開設される。
文化 11年	(1814)	鯖江藩に「進徳館」が開設される。
文政 2年	(1819)	福井藩に「正義堂」が開設される。(天保5年閉鎖)
天保 12年	(1841)	勝山藩に「成器堂」が開設される。
天保 14年	(1843)	大野藩に「明倫館」が開設される。
嘉永 6年	(1853)	この頃から府中で藩校設立の気運が高まる。
安政 2年	(1855)	福井藩に「明道館」が開設される。
安政 3年	(1856)	立教館が松原の東南角に建立される。(11月竹内確斎が立教館扁額を揮毫) 渡辺洪基が立教館に入学する。
	4月	本多富恭が本多家の家督(8代)を相続。
安政 6年	(1859)	8月 立教館教授沖薊斎、助教竹内確斎没。
万延元年	(1860)	松井耕雪、逍遙園を建立。
文久元年	(1861)	森余山が立教館教授として迎えられる。 谷口安定が立教館助教となる。(翌年まで) 八木静馬が立教館句読小長となる。
文久 2年	(1862)	松平春嶽が「進脩書院」の扁額を揮毫。以後、進脩覺と称す。 本多家 8代富恭が没し、副元が家督を相続。
元治元年	(1864)	立教館が本多家屋敷内に移転。(後に松原北側へ移転) 成器塾を設け、15才以下の生徒を教授する。 佐久間正が立教館の句読長となる。
慶応元年	(1865)	谷口安定、江戸より帰郷、立教館教授となる。
慶応 2年	(1866)	中島又五郎が立教館助教となる。
慶応 3年	(1867)	松本源太郎が立教館に入学する。
明治 5年	(1872)	学制頒布。 進脩小学校が陽願寺と引接寺を仮校舎として開校する。
明治 13年	(1880)	福井公立医学所福井病院武生出張所(武生分院)が橘町(八坂神社前) から松原東南に設置される。(明治15年 公立武生病院と改称)
明治 19年	(1886)	公立武生病院閉鎖。窪田宗太郎が私立武生病院を開院。
明治 22年	(1889)	谷口松軒・安定親子編集による、いろは順の国語辞典『魁本大 字類苑』が刊行される。